



TITLE:

京大広報 No. 451

AUTHOR(S):

京都大学広報委員会

CITATION:

京都大学広報委員会. 京大広報 No. 451. 京大広報 1993, 451: 577-586

ISSUE DATE:

1993-07-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/209187>

RIGHT:

ファイル中には未許諾による非表示部あり.

京大広報

No. 451

京都大学広報委員会



創立記念式典 ー関連記事本文 578 ページー

目 次

＜大学の動き＞	
創立記念式典の挙行	578
腎症候性出血熱 (HFRS) について	578
＜部局の動き＞	
平成5年度文学部博物館春季公開展示	578
公開講座 文学部博物館	
「古墳の発掘から歴史を」	579
計 報	579
第32回国立七大学総合体育大会の開催	580
「白馬山の家」の夏季開設	581
体育館附設プールの夏季利用	581
「白浜海の家」の利用	582
＜紹介＞	
胸部疾患研究所	582
＜保健コーナー＞	
慢性腎炎と上気道炎	584
＜コラム＞	
ドストエフスキーと動物	
霊長類研究所 小嶋 祥三	585
＜随想＞	
東一條界限	
名誉教授 田中 久	586

＜大学の動き＞

創立記念式典の挙行

6月18日（金）本学創立96周年記念式典が、名誉教授、部局長等関係者多数の出席を得て、本学総合体育館において挙行された。

式典は午前10時に始まり、総長式辞、永年勤続者の表彰、永年勤続者代表の答辞があり、本学の発展を祈念して、熊谷直一名誉教授の発声により万歳三唱が行われ、午前10時30分終了した。

本年の被表彰者は138名であり、うち30年勤続

者は74名、20年勤続者は64名である（被表彰者氏名は6月25日の学報第4481号に掲載されている）。

総長は式辞の中で、これら永年勤続者の労をねぎらうとともに、4年後にひかえた本学創立百周年について、その記念事業計画の概要と趣旨を説明し、教職員の理解と支援を要請した。

引き続き午前11時30分から京大会館2階会議室で名誉教授懇談会が、また午前11時50分から同会館1階講演室で永年勤続者祝賀会がそれぞれ開催された。

腎症候性出血熱（HFRS）について

平成4年11月17日本学医学部において飼育されている実験用のラットが腎症候性出血熱（HFRS）ウイルスに感染していることが判明して以来、胸部疾患研究所及び文学部でも同ウイルス感染ラットが検出された。このため他の部局のラットについても検査したところ、これらはすべて陰性であった。

人については全学で延べ469人の抗体検査を実施し、医学部、胸部疾患研究所で計6人の抗体陽性者が出たものの、既に潜伏期間を経過しており発病することは考えられない。

以上の結果、本学のすべてのラットの調査が済

み、同ウイルス感染ラットはすべて安楽死処分し、飼育した施設等もすべて消毒したので、平成5年2月22日開催の京都大学動物実験委員会において、現在、このウイルスは本学には存在しないという結論に達した。今後の予防策は、このウイルス感染ラットの本学への侵入を防ぐことであり、ラット導入時の厳重なチェックをしていくことが、最も有効な手段であるという調査結果をまとめ、事実上の終結に至ったものである。また、人については平成5年1月22日開催の京都大学保健衛生委員会流行性出血熱予防小委員会において、ラットに接触する人の定期検診の実施について検討していくこととなった。

＜部局の動き＞

平成5年文学部博物館春季公開展示

文学部博物館では、6月19日（土）で平成5年春季公開展示を終了した。展示内容、入館者数は次のとおりである。

また、本公開展示にあわせ、5月15日から6月5日までの間、4回にわたり土曜日の午後公開講座「古墳の発掘から歴史を」というテーマで開催した。

期 間	展 示 の 名 称	入 館 者 数				
		一 般	学 生	職 員	特別観覧	計
4/20～6/19	紫金山古墳と石山古墳 —4世紀の前方後円墳—	人	人	人	人	人
	日本古代文化の展開と東アジア	2,471	599	227	709	4,006

（特別観覧とは学術研究、視察その他博物館運営研究及び施設見学等である。）

—公開講座—

文学部博物館「古墳の発掘から歴史を」

文学部博物館では、平成5年春季公開展示にあわせ5月15日から6月5日までの間、4回にわたり土曜日の午後1時30分から4時まで、同講演室において第12回公開講座「古墳の発掘から歴史を」というテーマで開催した。

この講座は一般市民を対象とし、本学教官3名と他大学の教官が講師となり、紫金山古墳と石山古墳の発掘調査の結果を紹介し、古墳やその出土品の研究から歴史を復原していく過程を解説するものであり、67名が受講した。

講義題目、講師は次のとおりであった。

紫金山古墳と石山古墳の発掘

—1940年代における古墳時代研究の転換—

文学部 小野山 節

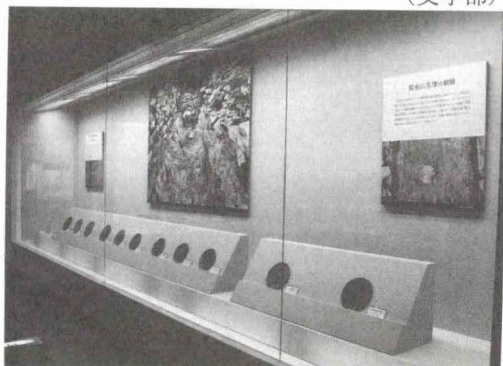
副葬品からみた古墳時代の前期と中期

京都府立大学 菱田 哲郎

鏡からみた古墳時代 文学部 森下 章司

古墳時代の甲冑 文学部 高橋 克壽

(文学部)



計 報

山本 文昭 医学部附属病院助手

本学医学部附属病院助手 山本文昭 先生は、6月9日逝去された。享年37。

先生は昭和57年3月富山医科薬科大学医学部を卒業後、同61年同大学大学院医学研究科を修了し医学博士の学位を得られた。同大学助手を経て、同62年本学医学部附属病院助手に就任された。

先生の専門は眼科学で、特に網膜の電気生理学

的研究の成果は国内外で高い評価を得ている。実験医学においても、生体眼での網膜層内電極法を開発し、神経細胞外イオン、pHなどの動態を追求し、特に虚血網膜の病態の本質に迫るいくつかの重要な発見をされた。その成果は難病といわれる網膜神経細胞の遅発壊死からの救済に関して、大切な研究の糸口を示し、眼科学界に多大の貢献をされた。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(医学部附属病院)

小松 醇郎 名誉教授

本学名誉教授 あつお 小松醇郎 先生は、6月11日逝去された。享年84。

先生は、昭和9年東京帝国大学大学院（数学専攻）修了後、大阪帝国大学助手、同講師、助教授を経て、昭和24年大阪市立大学教授に就任。昭和32年5月京都大学理学部教授に着任され幾何学講座を担当、昭和47年3月停年により退官され、昭和49年6月京都大学名誉教授の称号を受けられた。

この間、京都大学評議員、理学部長事務代理など多くの役職を務め大学の管理運営に尽くされ、特に、昭和40年本学に数理解析研究所が設置されるに当たって格段の尽力をなされた。先生は本学退官後、昭和47年から昭和59年まで東京理科大学教授を務められ、また、大学外では日本数学会理事、日本学術会議数学研究連絡委員などを歴任された。

先生の専門は位相幾何学であり、特に、胞複体のベッチ群の研究やホモトピー論の分野で先駆的業績をあげられた。また、この分野の研究者の育成に尽力し、「位相幾何学シンポジウム」を組織され、わが国の位相幾何学を世界的水準に引き上げられた。そのほか、日本における近代数学史の分野にも貢献された。主な著書に『位相幾何学Ⅰ』（岩波書店）、『いろいろな幾何学』（岩波書店）、『日本の数学100年史』（岩波書店）などがある。

先生は昭和56年、学術上の貢献、及び社会的貢献によって勲三等旭日中綬章を授与された。

ここに謹んで哀悼の意を表します。

(理学部)

第32回国立七大学総合体育大会の開催

今年の国立七大学総合体育大会（七大会）は京都大学が主管して、別表のように開催されます。

この大会は北海道大学の提唱により、学生によるアマチュアリズムの実践と参加大学相互間の親睦を目的として昭和37年北海道大学で第一回大会が開催され、以来当番大学持ち回りで運営され、今年で第32回目を迎えるに至りました。参加大学は北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大

学の7校。

7年目の地元開催であり、各クラブは是非とも優勝をと意気込んでいます。（前回京都で開催された第25回大会は本学が優勝）

夏の炎天下、日頃つちかった技を出しあっての熱闘を是非一度観戦してください。いずれの会場も無料で自由に入場できます。

なお、冬・春開催の3種目〔アイスホッケー、航空（グライダー）、馬術〕は既に終了しており、京都大学の戦績はアイスホッケーは7位、航空（グライダー）は4位、馬術は3位で現在総合5位につけています。

大会日程・会場一覧表

種 目	日 程	会 場
開 会 式	平成5年 7/10	京都会館第2ホール
アイスホッケー	平成4年 12/8～15	高野アリーナ
航 空	平成5年 3/16～23	千葉県関宿滑空場
馬 術	4/3・4	京大馬場
硬 式 野 球	6/25～28	西京極野球場
柔 道	7/2～4	京大総合体育館
準 硬 式 野 球	7/5～9	黄檗公園野球場
剣 道	7/10・11	大山崎町体育館
少 林 寺 拳 法	7/10・11	京大総合体育館
バレーボール	7/12～17	太陽が丘体育館・京大総合体育館
ソフトテニス	7/12～17	太陽が丘テニスコート
硬 式 テ ニ ス	7/13～17	ク
空 手 道	7/17・18	京大総合体育館
水 泳	7/17～19	京大プール
ハンドボール	7/17～22	伏見港公園体育館・京大総合体育館
弓 道	7/19～24	京大弓道場
陸上ホッケー	7/20～27	京大農学部グラウンド
バスケットボール	7/21～27	太陽が丘体育館
自 動 車	7/23～25	名阪スポーツランド
ヨ ッ ト	7/23～25	琵琶湖鏡が浜
バドミントン	7/23～28	京大総合体育館
体 操	7/24・25	京都教育大体育館
陸 上 競 技	7/26・27	皇子山陸上競技場
洋 弓	7/27～29	京大宇治グラウンド
ゴ ル フ	7/28～30	日野ゴルフクラブ
フェンシング	7/29・30	東大駒場体育館
卓 球	8/2～6	京大総学体育館
閉 会 式	8/7	京大総合体育館

「白馬山の家」の夏季開設

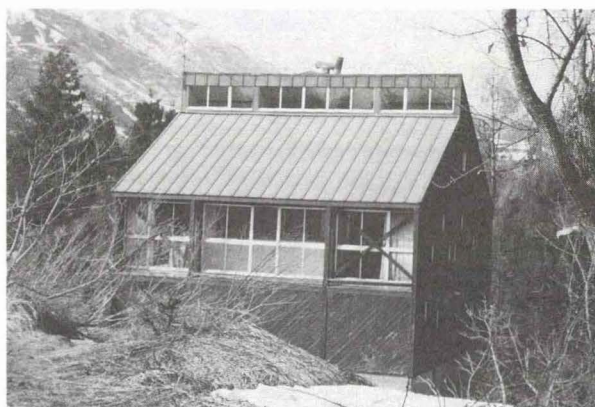
本学の学生及び教職員の厚生施設として、例年夏季及び冬季に開設されている「白馬山の家」を、今夏も下記により開設します。

この山の家は、中部山岳国立公園白馬山麓の^{つがいけ}杓池高原にあり、雄大な北アルプスの峰々に囲まれ、登山及び避暑等に最適です。

なお、建物は山小屋風の木造地上2階、地下1階建て、間取りは1階が食堂兼談話室、2階が寝室、地階が浴室、乾燥室等からなっています。

記

1. 名 称 京都大学^{はくほ}白馬山の家
2. 所 在 地 長野県^{あずみ}北安曇郡^{おたり}小谷村大字^{ちくに}千国字柳久保乙 869 の 2
(交通機関) JR大糸線「白馬大池駅」下車、松本電鉄バス「^{おち}親の原^{はら}」下車、徒走約20分
3. 開設期間 7月10日(土)～8月20日(金)
4. 収容人員 26名
5. 所要経費 1人1泊 使用料120円、ほかに食費等実費
6. 申し込み及び利用に関する詳細
体育会事務局(西部構内総合体育館内、電話 学内2574)に照会してください。



本学白馬山の家

体育館附設プールの夏季利用

本学の学生及び教職員は、体育館附設プールを下記により利用できます。

なお、利用可能日等の詳細については、学生部学生課体育掛(西部構内総合体育館内、電話 学内2590)に照会してください。

記

- 期 間 7月21日(水)～8月31日(火) (この間の25日程度)
ただし、日曜日は利用できません。
- 時 間 正午から午後2時まで
- (注意) 1. 利用に際しては、必ず職員証又は学生証を呈示してください。
2. 都合により利用をお断りする日があります。

(学生部)

「白 浜 海 の 家」 の 利 用

本学の学生及び教職員の厚生施設として、「白浜海の家」を下記のとおり通年開設しています。

この施設は、三段壁をはじめ千畳敷・円月島など風光明媚な南紀白浜にあり、海に近く、夏は海水浴に最適のところです。

また、「海の家」のある理学部附属瀬戸臨海実験所構内には、500種以上の海の生物を集めた水族館があり、有料で公開されています。

記

1. 名 称 京都大学白浜海の家
2. 所 在 地 和歌山県西牟婁郡白浜町 京都大学理学部附属瀬戸臨海実験所構内
(交通機関) JR紀勢本線「白浜駅」下車、明光バス「明光バス本社前」行きに 乗車、終
点で「臨海」行きバスに乗り換えて、「臨海」で下車。
3. 開設期間 通年開設
4. 室 数 和室3室
5. 収容人員 30名
6. 所要経費 1人1泊 使用料120円、ほかに食費等実費
7. 申し込み及び利用に関する詳細

体育会事務室（西部構内総合体育館内、電話 学内2574）に照会してください。

（学生部）

<紹介>

胸部疾患研究所

胸部疾患研究所は、4大部門12分野で構成される組織として、“各種呼吸器疾患、特に難治性呼吸器疾患の病態解明と診断・管理・治療に関する研究、および関連する基礎的科学研究”を推進している。現在、研究課題の一つとして、進展期の肺疾患、特に特発性肺線維症患者を対象とする肺移植術の実現を目指しての準備を進めている。研究の経緯・状況について紹介させていただくこととする。

特発性肺線維症は、肺胞壁の線維化（硬化）が徐々に進展し、そのために呼吸困難となる慢性の原因不明の難病である（写真1、写真2）。5年生存率は40％、10年生存率は20％と経過は悪い。そのため、欧米では1989年前後からこの病気の患者に肺移植が行われるようになり、現在までに350例以上の手術例があるが、わが国では未だ行われていない。これにはさまざまな理由がある

が、基本的には、わが国は長らく呼吸器の病気といえば結核で、特発性肺線維症のような病気が注目されるのが、欧米に比較して10年以上遅れてであったという事情が大きい。

胸部研では、昭和50（1975）年に、泉教授（環境呼吸器分野、当時第2内科助手）が、肺線維症外来を開設、以来このような疾患の診療・研究にあたってきた。現在では、長井助教授（臨床免疫学分野）を中心とするグループが診療・研究を担当している。胸部研で管理・治療を行った特発性肺線維症の患者数は全国の患者総数の46％（平成3年度厚生省特定疾患調査研究班調査による確定診断例についての集計）である。このように、胸部研はわが国におけるこの病気についての中心的研究施設となっているだけでなく、世界的にも有数の症例を持つ施設となっている。このため、昨年はドイツから2名の研究者が病態生理学的研究のため滞在、本年9月からはスウェーデンから2名の研究者が研究に参加することになっている。病態生理学的研究・治療研究においては、多くの

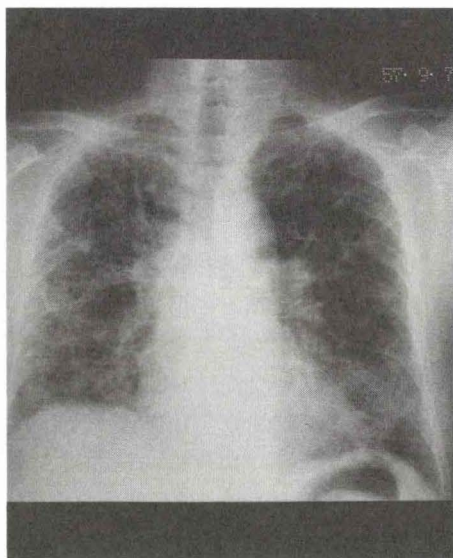
成果が挙げられている。しかし、延命におよぶ程の成果には至っていない。現実的な対応となると、肺移植しかないという欧米の見解に追従せざるを得ない状況である。このような状況から肺線維症グループの研究課題は病態生理学的研究に加えて、どのような時期に肺移植を患者にすすめるべきであるかが大きな検討課題となってきた。このような立場からの臨床研究・検討が行われている。

一方、肺結核の外科的療法の開発を目的として出発し、その後、肺癌の外科療法が主たる活動となってきた研究所の外科グループ、人見教授（胸外科）、和田助教授（補助臓器学）は、昭和58（1983）年以来、肺移植の開発・実現を目指しての研究・検討を重ねている。基礎的研究に加えて、6名の教官（青木講師、乾講師、横見瀬助手、池助手、水野助手、高橋助手）が、カナダ、米国、ドイツの肺移植実施施設で長期研修を行ったほか、カナダ、米国、フランス、ドイツ、英国、韓国の各施設との国際共同研究を通じて肺移植実現への準備をすすめている。基礎的研究としては臓器保存の問題、保存液の開発を中心に研究を行い、本研究には昭和62（1987）年以来、10件の文部省科学研究費補助金の交付が行われている。また、平成4年度からは、わが国における移植医療の実現を目指しての厚生省科学研究「臓器技術臨

床開発事業研究費」の交付を、人見教授、泉教授が受けている。また、移植関係学会合同委員会には日本胸部外科学会を代表して人見教授が、日本胸部疾患学会を代表して泉教授が参加している。

しかし、肺移植は患者と外科医が居ればできるというものではない。術前術後の呼吸管理の立場からは臨床生理学分野（久野教授）、感染管理の立場から炎症・感染学分野（久世教授）、検査全般にわたっては検査部（北市助教授）が、肺移植計画に参加しているほか、看護部、放射線部（高橋教授）、薬剤部、事務部を含めての肺移植検討委員会が平成4年2月、胸部研に設置され定期的に会合を重ねている。

脳死を人の死と認める臨時脳死及び臓器移植調査会からの答申が平成4年1月に提出されて以来約1年半が経過しているが、未だ臓器移植法案の国会提出は行われていない。わが国における移植医療の実現には多大の困難が存在する。しかし、現実に肺移植しか延命のすべがない患者のあること、欧米では肺移植はすでに実験医学の段階から医療の段階へ進展していることを考えると、我々として肺移植のわが国での実現を目指して努力しなければならないであろう。また、胸部研はわが国で唯一の呼吸器疾患を課題とする研究所であることを十分銘記して研鑽を積みたいと考えている。（胸部疾患研究所）



特発性肺線維症患者の胸部X線写真所見（左）とCT所見：線維化病変による線状影・索状影が肺野全体に広がっている。CTでは蜂窩肺と呼ばれる所見が特徴

＜保健コーナ＞

慢性腎炎と上気道炎

今年度の学生及び職員の定期健康診断も終了したが、今年度から診断を行う側の身となっていて、あらためてその対象人数の多さ（学生、大学院生あわせて約2万人、職員約5千人：もっとも全員が受診した訳ではない）に驚いているところである。

定期健康診断の検査項目の中の尿検査は当初より行われてきているが、尿蛋白、糖の定性テストに加えて、尿潜血のチェックが行われるようになったのは昭和62年からである。現在、一次検尿で潜血反応陽性者はさらにその尿を顕微鏡で観察し、赤血球数が1視野に10個以上認められる者については再度の検尿を勧めている。このような微量の血尿を呈しているひとは潜在性の慢性腎炎をもっていることがあり、現在全く症状が無いとしても、今後のチェックを怠ると進行することがあるためである。

慢性腎炎と一口に言っても多くの種類があるが、このようなかたちで存在するもののほとんどがIgA腎症といわれる腎炎である。このIgAとは上気道粘膜や消化管に分布する免疫グロブリンの名称であり、口や鼻から体内に入ってくる異物に対する免疫反応を担当している蛋白である。IgA腎症患者では、これが腎臓の尿の産生部位である糸球体に沈着していることからこの名称がついた。約20年前にフランスのBergerによって提唱されたこの腎炎は当初予後良好で放置しておいてよいとされていたが、近年その病型が多彩であり、進行型もかなり多いことがわかって来たため、診断の重要性が増してきた。更に我々にとって厄介なことに、現在までの世界の統計で、なぜかこの腎炎が日本を含む東アジアの人々に多く発症する事が確認されており、わが国での慢性腎炎のじつに40%はこの病気によるものと考えられている。

たいていは学校や職場の検尿で、主に血尿や蛋白尿で見つけられるが、時には風邪をひいた直後に眼で見てわかる赤黒い血尿で、見つけられることもある。また、今回の検診でもあてはまることであるが、よく尋ねてみると、小さいときに何度

も扁桃腺炎を繰り返した事があったり、現在ものの痛みをともなう風邪をひきやすい事、扁桃腺の肥大、副鼻腔炎など、いわゆる上気道をふくむ粘膜病変を来しやすいひとが圧倒的に多いのが特長である。これは先程述べたようにIgAが上気道粘膜、扁桃腺に多く分布している事と符合するように思われるが、実は正確な因果関係はまだ明らかでは無い。また断っておかねばならないが、扁桃腺肥大のひとやいわゆるのど風邪をひくひとが、みんな腎炎であるということではない。ただ、軽微な血尿や蛋白尿がみとめられるひとの中で、こういう上気道炎にかかりやすいひとは腎炎、特にIgA腎症を潜在的にもっている可能性が高い。ほとんどは治療を要するほどの進行型では無いが、このようなひとは一度は精密検査を受けて、腎臓の機能を確認することが大事である。また、軽い風邪でもたかをくくらず、軽症で済ませるように努力する事が一般のひとより重要であり、風邪をひいたときにはのどを診てもらうだけでなく、検尿もしてもらうようにする事も大切である。普段の検尿ではわずかな血尿を認めるだけのひとでも、上気道炎時の尿では赤血球の量が増え、蛋白尿も認められるようになって、その本性が明らかとなることがあるからである。たいていは上気道炎がよくなると尿の所見ももとに戻るが、ときどき問題となるのは、いわゆる風邪の症状が消えたのちも、尿の所見がもとに戻らず、潜在型であったものが、顕在化してしまうことである。こうなるとこの時点で腎炎にたいする治療を開始せねば、進行性となり腎機能の低下を招くことになる。どのような風邪の時に進行性になるのかは残念ながら、まだわかっておらず、また風邪以外の原因で進行性になることもある。尿の所見に異常があって風邪をひきやすいひとは風邪がなおったあとも尿がもとに戻るまでは安心をせずにチェックを続けていただくことをお勧めする次第である。

「風邪は万病のもと」と昔から言われているが、腎炎を診るものからすれば、これは決して単なる言い伝えではなく、常に眼前に立ちはだかる研究課題である。慢性腎炎による透析を受けるひとの数は糖尿病性腎症による慢性腎不全患者の増加に比べ、頭打ちになったとは言うものの、若い

